

ともだちのわ

T O M O D A C H I N O W A



双葉幼稚園

特集 千葉市内 親子で出かける おすすめスポット 第3弾



こまどり幼稚園



青い鳥幼稚園



若松台幼稚園

Contents

- P02 巻頭言 千葉大学教育学部 教授 中澤 潤
- P03 千葉市幼稚園協会 研修会
- P06 幼稚園教育研究会(公開保育)を終えて
- P08 千葉市内 親子で出かけるおすすめスポット 第3弾
- P10 保育室の窓から
- P11 視察研修会を終えて、松野博一文部科学大臣表敬訪問
- P12 おべんとうだあいすき、編集後記

幼保小連携・接続の強化と幼児教育の「質」の向上



千葉大学教育学部 教授 中澤 潤

日本の幼児教育は大きな変革を迎え、その重要性が改めてクローズアップされています。幼稚園、保育園、認定こども園いずれに通う子どもも、3-5歳の間は共通の原則に基づく幼児教育を受けることになりました。また、この3月末に示される新教育要領、保育指針では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が整理・提示されますが、この幼児期の終わりの姿は、小学校のスタートの姿でもあり、幼児教育と小学校教育との接続が重要な課題となります。

こうした流れのなか千葉市は、千葉市幼稚園協会、千葉市民間保育園協議会の協力の下、幼児教育充実のためのプロジェクトを開始しました。去る12月10日、その一環として「千葉市幼児教育シンポジウム：幼保小連携・接続を起点とした幼児教育の充実に向けて」が開催され、250名に及ぶ参加者を得ました。白梅学園大学 無藤隆教授の基調講演、「千葉市幼保小連携・接続検討会議」の調査報告を受け、千葉市幼稚園協会 岸憲秀会長、千葉市民間保育園協議会 宇野直樹理事、無藤隆教授、そして熊谷俊人市長によるパネルディスカッションを行いました。そのコーディネーター役として、論題や内容をまとめてみましょう。

幼児期だからこそ身につけておきたい力は何か

好奇心、集中・熱中できるものを持っていること、自分なりの粘り強い活動があげられ、それらは遊びのなかで身につくことや、そうした遊びの「環境」をつくるのが大切であることが論じられました。

幼保で育てたものを小学校でどう引き継いでほしいか

小学1年は一から始まるわけではなく、子どもたちが幼保でどのような教育・保育を受け、何を身につけてきたかについて小学校との相互理解を深めたい。また、子どもにとって入学期の小学校が「アウェイ感」の高いストレスフルな環境であることを理解する必要があり、トイレ、給食、教科など子どもがつまずきやすいことは、信頼関係のなかでの情報交換により対応を工夫できるのではないかとされました。

小学校への接続についての考え方

私立幼稚園と民間・公立保育所は研修の相互乗入れを始めているが、さらに小学校の先生とも一緒に研修できると良い。また、さまざまな形で子どもの遊びを支えている保育者の姿や、保育の準備や反省を含めた保育者の1日の生活から幼児教育に大切な「環境」が作り出されていることを、小学校の先生に理解してもらう必要があることが指摘されました。

無藤先生から、幼保にとって「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とはどのような姿で、それが小学校ではどういう姿になっていくのかを、幼保と小学校が共に考えてほしいという課題をいただき、ディスカッションを終えました。千葉市の子どもたちのために、幼稚園、保育所、行政が一堂に会する機会が得られたことを、どのパネリストも高く評価し、長く千葉市の幼児教育を見つめてきた私自身にとっても、これからの千葉市の幼児教育の質の一層の向上と幼保小接続の発展への期待が大いに膨らむシンポジウムとなりました。

千葉県幼稚園協会 研修会

千葉県幼稚園協会では教育・保育力向上を目的として、毎年さまざまな研修会を企画しすべての教職員が参加しています。今年度開催された研修会の報告をいたします。

研究部会

研究部会では「子どもの“ことば”を豊かに育む保育を考えよう」という研究テーマについて話し合いました。

平山許江先生には『言葉を育てるとは?』という核となる考え方や実践検討を読み取るための理論的な視点にも言及していただきました。

岸井慶子先生との「ビデオカンファレンス」では、子どもの言葉と姿を捉え、その意味について皆で討議し合うことができました。

まとめには、榎沢良彦先生からの「私たちの言葉は子どもに届いているか?」という問題提起を考えると共に、言

葉を育むためには信頼し合う人間関係や熱心に話を聞いてくれる人の重要性を改めて学んだ部会になりました。



各園の事例検討をもとに、平山許江先生から問題提起や助言をいただきました



榎沢良彦先生から話しかけのワークを教えていただき、言葉が届くことについて考え合いました

山崎 佳世 (由田学園千葉幼稚園)

事例研究会

今年度も40名を超える先生方と学びを共にすることができました。今年は“インシデントプロセス法による事例研究”という新しい試みに挑戦しました。提供された事例について、参加者一人ひとりが子どもの実態把握を行い、問題を明らかにし、支援方法を考え、協議する場に積極的に関わることを目的とした試みでした。障害の専門家でなくても保育の専門性で子どもの問題にアプローチすることは可能です。支援の必要な子どもたちに出会う先生方の力になることを願って、次年度も継続していきます。



グループごとに発表



一人ひとり意見をだして

島田 靖子 (都賀の台幼稚園)

特別支援教育研修会

今年度の特別支援教育研修会は、5月「だれもが生きて輝く保育作り～インクルーシブ保育の意味と実践課題～」7月「支援につなげる専門機関を知る」「事例研究と個別の指導計画」「困っている子の姿をどうみるか」「対応の難しい子どもたちの親を支える」H29.2月「小学校へつなげる～気になる子・支援の必要な子どもたちの小学校との連携～」という内容で行いました。多くの先生方が保育のあり方や子どもの見方について悩んだり考えたりしている現実に対し、役立つ手立てやヒントも多く、また子どもや保護者が直面している問題についても考える機会となる研修でした。



小学校との接続を考える

鈴木 朱美 (植草学園大学附属弁天こども園)

第1分科会

第1分科会は、年間を通しての共通のテーマ“より専門性の高い教師をめざして”を掲げて「子どもの言葉の気になる症状とその対応」「うれしい絵本読み聞かせ」「生きる力を育む幼稚園～園庭に焦点を当てて～」「科学って面白い」の4分野を研究しました。

県立こども病院の言語聴覚士、NPO法人園庭・園外の野育を推進する会の理事、絵本作家、TVでおなじみのでんじろう博士のお弟子さん。それぞれ専門の講師の方をお招きし、講演や実演を受けた先生たちは、とても充実した学びがありました。

相互乗り入れの導入で参加された保育園やこども園の先生

方からも、保育園ではなかなかこのような研修を受ける機会がないためたいへん有意義であったとの感想がありました。



ウクレレ演奏を交えながらの絵本研修



大きなバルーンを操る先生方

熊田 佳美 (子鹿幼稚園)

第2分科会

今年度は「子どもとのコミュニケーションに大切な感性を高める」という、とても興味深いテーマのもと、スタートしました。

普段、読み聞かせをしている絵本は、子どもたちの興味や用途に合わせて選び使い方次第でさまざまな生活や遊びを深めるなど保育がより豊かになることを講師の先生のお話によって再確認しました。

リトミックでは、さまざまに変化する環境に柔軟に対応できるように感性や感受性が身につくことを他園の先生方と触れ合い、コミュニケーションを取りながら学ぶことができました。

また、いろいろな角度から子どもの育ちに大切なことや私たち女性の健康について教えていただき、最終日には、あつと驚

くマジックで、ワクワクドキドキ童心に戻ったようでした。

この研修で得たことを今後の保育で活かしながら、保育者として子どもたちの可能性を広げられるように日々努力をしていきたいと思います。



歌いながら遊んで、楽しさを共有しました



トランプマジックの種明かし…

吉岡 久美子 (葵幼稚園)

第3分科会

今年度は、主となって第3分科会の研修を担当させていただきました。慣れないことで戸惑うことばかりでしたが、一生懸命研修に参加する先生方の姿を目にして、私自身、学ぶことが多かったように思います。子どもたちは先生の鏡です。日々の保育のなかで研修したことが自然と子どもたちに生かされてくるのではないのでしょうか。先生自身の成長がクラスの子どもの成長にもつながります。もっと勉強したいという先生方の声に応えられるように研修の内容をさらに充実させていきたいと思います。



「楽しい運動遊び」では、体をおもいきり動かして研修しました



「科学あそびと絵本」では、科学の不思議さを実感しました

和田 由美 (千葉敬愛短期大学附属幼稚園)

第4分科会

今年度は昨年のアンケート結果で多数書かれた「保育展開ですぐに役立つもの」という希望に沿えるよう検討をしました。『鍵盤ハーモニカ指導』は手遊びや歌を通して導入していく方法を学び、『体操あそび』は運動会や日々の保育に役立つ動きやゲームをして楽しみました。『マジックあそび』は、紐・新聞紙・パネル・パペットで、驚きや感動を与えてもらえました。

『けん玉あそび』はいろいろな技にふれながら身体の柔軟性やリズムカルな動きを養えました。参加者自らが楽しく研修

に参加をすることにより子どもたちにも感動が伝わり、園生活でより楽しさを共有できるように願っています。



各園の先生方がチームをつくり汗を流しながらゲームを楽しみました!



先生のパワーで驚きと感動をいただきました

中村 八重子 (千葉文化幼稚園)

第5分科会

平成28年度の第5分科会は、各幼稚園の先生方が即現場で活用できるプログラムを目標に実施しました。公認のけん玉を使用して全員9級獲得に挑戦しました。次に2色のロープを使ってのマジックや靴下で作った「ヘビ」による劇の発表会をしました。園内の行事に対応できるように、園児と遊ぶレクリエーションゲームの実践をしました。最後は6区を3つに分けて、近隣の小学校の授業参観・協議を行い、幼小連携の課題がみえてきました。それぞれの研修では、参加者が汗を流しながら頑張っている姿がありました。今後もさまざまな研修を計画していますので、各園事情があると思いますがより多くの先生方の参加を期待しています。

「現場ですぐ役立つ研修を」との要望で、けん玉実技、マジック&人形劇、レクリエーション指導の方法、小学校1年生の授業参観を行いました。「どの内容も実り多く大変良かった」との感想でした。

なかでも小学校参観では、自分のクラスの子どもたちが将



教頭先生からの説明



授業参観の様子

末田 昭敏 (真砂白百合幼稚園)

来どのように授業を受けるのか？興味深く参観していました。

これからも、実り多い研修により多くの先生が参加できることを願っています。

関原 喜恵 (山王幼稚園)

第6分科会

科学遊びでは、興味を引き出し体験することの大切さを、運動遊びでは、運動習慣の基礎づくりや遊びの分析、保育にそのまま生かせる実技指導で、遊びの幅を広げました。アレルギーの対応ではアナフィラキシーの危険な事例を知り、エピペンの扱い方の実践を通し、命を守る意識を高めました。また、造形実技を通し発想力と子どもの声に耳を傾けることのできる保育者としての資質の必要性を再認識しました。金沢小学校では、オープンスペースの教室での授業を参観、協議会では小学校生活の実態を知り、幼稚園生活を見直す良い機会でした。今年度も参加者から、講師への感謝のメッセージが多く寄せられ研究委員として安堵しています。次年度も保育者の資質を高める研修会となるよう努めて参ります。



造形の实技



音楽の授業に参加

今井 尚美 (認定こども園白梅幼稚園)

第7分科会

平成28年度の研修会も無事に終わり、担当としてはホッと一息をついています。6月の「こどもの心を動かす運動遊び」では身近な物を使い、自然に遊びが展開されるさまを体験し、夏の研修ではそれらの遊びを通しての育ちを学びました。また普段はなかなか触れることのできないハープの音色を体感し、各園で取り入れ始めた「英語」にも触れ、改めてことば遊びを考える時間も設けました。皆さんにとって実り多き研修であったことを願います。



ハープの説明



ハープ体験

日暮 さつき (千葉女子専門学校附属聖こども園)

柴田 大輔 (千葉明德短期大学附属幼稚園)



幼稚園教育研究会(公開保育)を終えて

中央区

「生きる力の基礎は全て遊びにあり」これが当園の保育の柱です。日頃からやりたい遊びがいつでもできる・・・そのための準備・環境をどのように整えるか、毎日試行錯誤の連続です。今回は一つの遊びが継続発展していく保育過程を参観していただきました。

私たちの願う、子どもの「主体的な遊び」が、少しでもご参考になりましたら幸いです。

分科会では、ご参加の先生方と「遊び」について、より深い話し合いができました。ありがとうございました。これからも教職員一同、日々精進していきたいと思っております。



手づくり楽器で演奏

井下田 敦子 (登戸幼稚園)

中央区

曇り空でとても寒い中、11月9日幼稚園教育研究会が行われましたが、今回本園は、新規採用者と2年目に入った教諭が対象の会場となりました。当日、参加者たちの多くは、朝の受付を済ませてからどのように動いたらいいのか戸惑っている様子が見られたので、「教室の中や興味のある所へどんどん入って参観していいですよ」と促しました。それでも遠慮がちに入って行かれた方も多く、我々が忘れかけていた初々しさを感じる場面も多々ありました。

午後の講演会は、学研の編集長による「総合絵本」を作る過程と使い方について、平成28年の4月号に使用されているイラスト原本等を用いて講演をしていただきました。



年長組の木工制作風景

斉藤 光正 (こまどり幼稚園)

美浜区

「生きる力を引き出す保育の実践」をテーマに開催した研究会の会場として約90名の方々が幼稚園に来園されました。担当園になり、日常の何気ない繰り返しの生活の中で、子どもたちの生きる力が育まれていることを改めて考える機会を与えていただきました。

また、当園の3つの保育の特色「①広々とした園庭を活かした保育②自然とのかかわりを活かした保育③一人ひとりの発達段階に寄り添う保育」について参観された先生方から高い評価をいただき自信がもてたこと、課題を見つめなおせたことを活かして今後の保育実践をより充実させていきたいと思います。



今年のおりがみ制作

熊田 佳美 (子鹿幼稚園)

美浜区

この43年間に当番園は、1976・1990・2001・2008・2016年の5回。今回は、100名の先生方が普段の保育〔折り紙制作(三角形)、音楽リズム、おにぎりづくり、数遊び(6の合成と分解)、かるたづくり)をご参観(嘔吐時、ファミテクト消毒の一場面も)。午後は反省会と当園ゆかりの『人形劇団“なんだろな”』の公演と歌(弾き語り)。終始、和やかで温かな雰囲気よかったです。常日頃交流の多い高州第三小学校の校長先生からは、幼保小連携の観点からもよい機会だったとの感想をいただきました。

全ての関係者の皆様に感謝申し上げ、高洲幼稚園のまとめとさせていただきます。



おにぎりづくり

長谷川 深雪 (高洲幼稚園)

花見川区

研究会当日、登園した子どもたちは、大人の方がたくさんいらっしゃるので、少し戸惑う姿もありましたが、ほどなく、いつものように園庭で遊び始めました。

少人数で縦割保育をしているので、年齢の違いや、お互いの個性を受け入れながら園生活を送っています。その一端を感じていただけたら幸いです。たくさんの方々に囲まれた半日でしたが、皆様のご協力で「いつもと同じ幼稚園の半日」を過ごすことができた子どもたちでした。



園庭で…

芦谷 彰世 (青い鳥幼稚園)

稲毛区

本園では研究会の開催にあたり、普段の保育を自然な形で参観していただくことを考えて準備を進めていきました。当日は、味噌づくり、こんにやくづくり、園内の植物や動物のネイチャーマップづくり、自然物による楽器づくり、食育についての活動などを公開しました。全体会では、参観された先生方から心温まるご助言や励ましの言葉をいただきました。また、陶芸粘土を使った実技講習をしましたが、熱心にお皿づくりに取り組む姿が見られました。

本園では、自然体験、食育体験を大切に考えて保育をしてきましたが、これからの伝統を守りながら、子どもたちがこれらの体験を通して学んでいけるように、日々努力をしていきたいと思えます。今後もご指導をよろしくお願い申し上げます。参加された来賓の皆様、各園の先生方、本当にありがとうございました。



全体会 陶芸お皿づくり



年中組 味噌づくり

秋谷 悦子 (弥生幼稚園)

稲毛区

愛隣幼稚園は、この日も“子どもたちの自由で主体的なあそび中心の生活”を参観していただきました。多くの先生方にご参加いただき、分科会でもたくさんのご発言をいただけたこと、心より感謝申し上げます。園内では研究会に向けて「子どもたちのあそび」を記録し、協議を重ねこの日を迎えました。併せて当日には、外部コーディネーターの先生方をお招きし、率直なご意見を頂戴しました。研究会が私たちの保育を振り返り、吟味し、確認する貴重な時であることを実感しています。この機会に得た学びを生かし、子どもたちが更に輝く保育を目指して参りたいと考えております。



足湯レストランのお客さんと

鈴木 仁美 (愛隣幼稚園)

若葉区

研究会当日は、雨上がりの朝となりましたが、50名の参加者をお迎えして行われました。

子どもたちは、大人の方が大勢いらしたのにびっくりし、遊びだせなかったので、保育者がリードして遊び始めると、年中・年長児はいつもと変わりなく夢中で鬼ごっこやかくれんぼ等の遊びを楽しみました。困ったことがあると、いつものようにみんなで相談する場面もみられ、日常の保育の様子をご覧いただくことができたかと思えます。

参加の先生方が、支援の必要な子どもたちに配慮しながら参観していただき、園としてもよい研修となりましたことを感謝しています。



プリンセスごっこ

「今からダンスパーティをはじめます」(年少児)

勝山 満喜子 (のぞみ幼稚園)



千葉市内 親子で出かける

おすすめスポット

あれこれ
are kore
No.3

NPO法人 郷土ちばに学び親しむ会 理事
元都幼稚園 園長 高橋 明

1 県立幕張海浜公園と花見川緑地交通公園

幕張海浜公園は幕張の浜やZOZOマリンスタジアムなどの海側ブロックと花時計やわんぱく広場、見浜園などがある陸側ブロックに分かれます。広さは72ヘクタールもあり大人から子どもまで楽しめる施設が揃っています。子どもたちに人気があるのはわんぱく広場でネットクライミングやターザンロープなどさまざまな遊具があります。隣接する健康の広場には大人向けに体力づくりの運動器具が設置されています。見浜園は池を中心とした池泉回遊式の日本庭園で四季折々の自然が体感できます。

花見川緑地交通公園は花見川の右岸の広い敷地を利用した施設です。子どもたちが楽しく遊びながら正しい交通知識や交通道徳を学ぶことができます。

模擬道路が整備されており、子どもたちが安全に自転車に乗る練習にも最適です。子ども向けに大きさの異なる様々な自転車が用意され無料で借りることもで

きるほか、団体を対象とした交通安全教室（要申込）なども適宜開催しています。（無料の駐車場有り）



見浜園



花時計と大芝生広場

2 昭和の森とホキ美術館

昭和の森は昭和50年に開園した総合公園で市内最大の広さがあります。平成元年に日本の都市公園100選に選ばれています。昭和の森がある土気地区は市内で最も標高が高い地域です。なかでも昭和の森にある展望台は101メートルもあり、九十九里平野や太平洋が一望できます。元日は初日の出の見学スポットとして賑わいます。子どもたちにはのびのびと遊べる太陽の広場や冒険広場が人気です。なかでも全長109メートル、高低差25メートルもあるローラー滑り台は特に人気があり、行列ができます。（故障のため休止中、使用再開は平成29年4月を予定）

お花見広場や湿性植物園、花木園などもあり四季の自然が楽しめます。サイクリングコースも整備されており、幼稚園、保育所、小学校などの校外学習に利用されています。

公園に隣接してホキ美術館があります。日本初の写実絵画専門の美術館として2010年開館しています。常設展のほかに年間に2回企画展を行っています。いずれの作品も制作に長時間費やし、写真を超えるほど丹念に描かれています。写真ではなく人が描いた作品であることを強調し、子どもたちにも鑑賞させたいものです。

建物のづくりもユニークで、約500メートルにわたる回廊型ギャラリーになっており、2011年に日本建築家協会より「日本建築大賞」に選ばれています。JR外房線土気駅から歩いて約20分。



ホキ美術館



ローラー滑り台

千葉市内には親子で出かけ、楽しめる「おすすめスポット」が多数あります。これまで2回にわたり、市内各所を紹介しました。今回は前回までに紹介できなかった場所、特に公園を中心に紹介します。現在、テレビゲームやスマホなど映像全盛の時代です。そんななか、幼少期の子どもたちに自然体験活動の重要性が叫ばれています。五感を通し、花鳥風月、四季折々の自然を体感させたいものです。調査では自然体験活動が多いほど優しさや思いやり、思考力、創造力などさまざまな能力が育つと言われています。家庭教育の一環として、親子で市内公園の散歩がお勧めです。



3 稲毛海浜公園と三陽メディアフラワーミュージアム (花の美術館)

稲毛海浜公園は日本初の人工海浜「いなげの浜」がある総合公園です。稲毛海浜公園プール、稲毛ヨットハーバー、海辺のレストラン、芝生広場、稲毛民間航空記念館などさまざまな施設があります。

市民参加で植えられた磯の松原も大きく成長し「日本の白砂青松百選」に選ばれています。約1キロもある「散策コース」も完成し、親子でのんびり散歩が楽しめます。子どもたちには各種遊具が揃っているパルコースがお勧めです。「いなげの浜」は千葉市唯一の海水浴場でもあります。砂浜を歩きながら貝殻や流木など流れ着いた漂流物を観察したり、集めるのも楽しいです。

三陽メディアフラワーミュージアムは屋外花壇、屋上庭園、熱帯温室などがあり四季を通し季節の花が楽しめます。平成28年4月、開館20周年を迎えています。年間を通してさまざまなイベントが実施されています。

また、花や緑について「みどりの相談コーナー」の相談員が相談に応じてくれます。

平成27年には中庭もリニューアルオープンし、季節感あふれる庭園となっています。中庭に隣接する花や緑を楽しみながら食事のできるイタリアンレストランもあります。



磯の松原

4 千葉市都市緑化植物園と都川水の里公園

都市緑化植物園は千葉市の緑化活動の拠点で、緑の相談所も設置され専門の係員が常駐し植物の栽培方法等について相談に乗ってくれます。

花木・生垣などの見本園があり季節の花々、流水、バラ園やハーブ園など、四季折々の植物を楽しむことができます。特に春と秋のバラの開花期には多くの市民が訪れます。バラ展やハーブ展、菊花展、写真展など年間を通してさまざまなイベントが計画、実施されています。

植物園に隣接して「都川水の里公園」があります。昔懐かしい水田を中心とした田園風景が広がっています。田植えや稲刈りの体験もできます。水田の脇に千葉市最大級の湧き水（自噴井）があります。

近くに丹後堰公園もあります。丹後堰は江戸時代の初期に毎年干ばつで苦しんでいた寒川や千葉寺などの農民を救うため、都川の水を分流する土木工事で築られました。この堰は寒川の名主布施丹後により築かれたと言われています。千葉寺の境内に布施丹後の記念塔があります。



都市緑化植物園のバラ



田園風景



都川水の里公園

保育室の窓から



餅つきの会

さざれ幼稚園 小川 なつ美

さざれ幼稚園は、子どもたちにさまざまな経験をしてほしいという思いから行事が盛りだくさんな幼稚園です。その一つに、新年を迎えてすぐにある餅つきの会があります。お父さん方の迫力ある餅つきを見学した後、自分たちも餅つきを体験し、でき上がったつきたての餅をみんなで楽しく食べる、子どもたちが楽しみにしている行事の一つです。今年も天候に恵まれたなか行われました。各クラスで最初に、臼の周りに丸くなって座り、つく前の餅米の状態を見て食べてみました。「いつも食べているお米みたいだね」等言いながらこれからのようにしてお餅になるのかわくわくしている様子の子もたち。お父さん方がついている様子を見ながら、みんなで「よいしょ!」と掛け声を送ったり「パッ頑張っー!」と嬉しそうに声援を送っていました。みるみるうちにパラパラしていた餅米が丸くなり、杵にくっついて伸びる餅を見た子どもたちは目をキラキラさせながら釘付けになっていたりと、「なんでー?面白ーい!」という声がたくさん飛び交っていました。そしていよいよ自分たちも餅をつく番に。ちょっと緊張した様子の子もたちですが、友だちの応援をしながら自分の番が来ると嬉しそうに杵を持ち、上手につくことができました。でき上がった餅は、年中・年少児は役員のお母さん方が作ってくださった餅を、年長児は自分でちぎり、好きな味をからめて食べました。自分たちでついたお餅は、きなこやあんこ、海苔醤油味に変身し、美味し過ぎてあっという間に無くなり「20個も食べたよ!」と話す子もいました。子どもたちは、こうした日本の伝統行事等を通して普段はできない貴重な経験を積み日々成長しています。



私の好きな絵本

「もこもこもこ」

文研出版 谷川俊太郎

鮮やかな色使いで擬音語のみのとてもシンプルな絵本なのですが、言葉の音に合ったイラストが読んでいても読み聞かせてもらっても楽しく、私自身小さい頃から大好きな絵本です。さまざまな解釈ができ、赤ちゃんから小学生位まで幅広く楽しめると思います。

絵本大好き

城徳学園いそべ幼稚園 長尾 宏美

いそべ幼稚園では、毎日必ず子どもたちに絵本の読み聞かせをしています。その学年のその時期に応じた絵本を担当が選んでいます。3歳児の初めは「だるまさん」のように短いお話を選んでいきますが、5歳児の3学期には「エルマーの冒険」のような絵の少ない童話でも真剣に耳を傾けるようになります。そのクラスのお気に入りの物語が、そのまま劇遊びに発展したり、12月のお遊戯会で言語劇や舞踊劇になったりすることもあります。

また週に一度、絵本のお部屋から好きな絵本を一人一冊ずつ借りて家で読みます。何度も何度も同じ絵本を借りていく子がいます。お気に入りの絵本は、繰り返し見たくなる魅力があるんですね。シリーズものを制覇する子もいます。幼稚園だけでなく、家庭でも保護者の方と一緒に楽しんでいただき、絵本の大好きな子になってくれると嬉しいです。



年長組の卒園式で年長児が一人ずつ将来の夢を語りますが「私は、大きくなったら絵本作家になりたいです。」と言う子が今まで何人かいました。今年の私のクラスにも女兒が一人、絵本作家になりたいと言っています。卒園児の絵本が本屋さんや並んでいたら、なんて素敵なことでしょう…。

私の好きな絵本

「こんとあき」

福音館書店 林 明子

あきは、きつねのぬいぐるみのこんと一緒にあばあちゃんの家まで旅をします。でもその旅はハラハラドキドキの連続。最後は、ハッピーエンドで心温まる物語です。電車や車内の絵が出てくるので、電車好きな男の子のお気に入りの一冊になりました。

ジョイントコンサート

大巖寺幼稚園 越谷 陽子

大巖寺幼稚園では毎年2月、淑徳大学吹奏楽部の学生さんと「青葉の森芸術文化ホール」にて、ジョイントコンサートを行っています。学生さんの演奏に合わせて全員で歌を歌い、各学年で合奏をします。日々の練習の成果を発揮し、一年の集大成ともいえるジョイントコンサート。

はじめはなかなかうまくいかず、集中力が途切れてしまうこともありましたが、でも繰り返し練習することにより、できなかったことができるようになった喜びが自信につながったり、先生と子どもたちが心を通わせ互いの呼吸がそろそろようになってくると、一人一人が意欲的に取り組めるようになってきます。



毎年大舞台で目を輝かせて堂々と演奏する子どもたちの姿をみると、胸が熱くなります。

ジョイントコンサートを通じて子どもたちが「人生で大切なこと」を少し身に着けたと受け止めてくれると、嬉しく思います。

私の好きな絵本

「いしゃがよい」

福音館書店
さくら せかい

繰り返しの文章と歌のリズミカルな心地よさ。言葉は少ないけれど、お互いを思いやる温かい気持ちが心に残る一冊です。

視察研修会を終えて

11月21日、神戸市須磨区の「認定こども園禅昌寺幼稚園」および「平田幼稚園」を訪問し、その後須磨区役所にて須磨区長、こども家庭支援課長、保育サービスコーディネーターとの懇談と、こども家庭支援課の施設見学をいたしました。

「禅昌寺幼稚園」（幼稚園型こども園・園児数288名）では、園内施設見学後に近藤理事長より、新制度に移行するまでの経緯などわかりやすくご説明いただき大変参考になりました。また、須磨区は「子ども・子育て支援新制度」のもと、全国でも先進的に行政と私立幼稚園が相互理解を深め、顔の見える関係を構築していま



す。区役所にて行政と私立幼稚園とのやりとりや、区民への情報提供についてなど細かい説明がありました。また私共の質問にも丁寧に回答いただき、貴重な情報交換とともに今後の課題や取り組み方などについても考える良い機会となりました。

今回ご協力いただいた皆様には、心から感謝いたします。ありがとうございました。

鶴岡 姫美子（さつきが丘幼稚園）



松野博一文部科学大臣表敬訪問

10月24日、全千葉県私立幼稚園連合会理事の皆様と、私たち幼稚園協会の代表で松野博一文部科学大臣を表敬訪問いたしました。松野氏は千葉県出身で、28年8月、大臣に就任されました。

地下鉄、霞が関の出口で地上から文科省にアクセスしたところ、旧文部省庁舎に到着しました。

1933年に落成した建物は歴史と風格を感じさせました。待ち合わせの東館へ向かうと、入り口は虎ノ門の地下鉄の出口と直結していて、こちらは近代的で洗練されたイメージでした。

案内されて廊下



から部屋に入りましたが、そこからまだ進み、一番奥の大きな扉を開けたところに松野文部科学大臣がいらっしゃいました。大臣は笑顔で私たちを迎え入れ、分刻みのスケジュールのなか、幼稚園協会の取り組みにも熱心に耳を傾けてくださいました。

実際に大臣にお会いできて、大変光栄に思います。このような機会をいただき感謝いたします。

五嶋 晴代（おゆみの幼稚園）



おべんとう だあいすき

今回は『ロールサンドイッチ』です。
お子さまの好きなものをグルグルと巻
きましょう。切って並べると彩りがきれい
ですね。ポンポン口にはこべるので遠足や
短時間で食べたいときにおすすめです。

(若松台幼稚園 横森芳江先生のおべんとう)



おべんとうレシピ
ロール
サンドイッチ

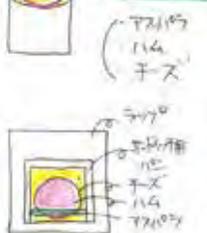


♡ ロールサンドイッチ♡

下ごしらえ

- サンドイッチ用パン
- ♡ にんじん (千切り) ロールパンに包み込んでやわらかくする)
- ♡ きぬぎや (下ゆでして水切りして千切りにする)
- ♡ ハム (千切り)
- ♡ アスパラガス (ピーラゾクを壁にのせてとろろと食感をよくして食べやすい)
- ♡ ゆで玉子 (こまかく切ってマヨネーズと和える)
- ♡ サラダ菜 (水米いもして水切りする)
- ♡ スライスチーズ (オーブナー (軽く炒めるとレンジで温める))

♡ アスパラハムチーズ巻♡



ポイント
1. アスパラハムを千切りにしてレンジで加熱して水分を飛ばす。
2. チーズはレンジで加熱して溶かす。
3. マヨネーズと和える。
4. お好みの具にはじからラップで巻きつけておきます。

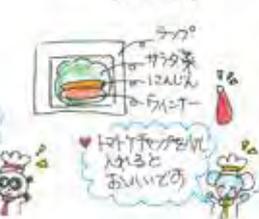
♡ たまやさい巻♡

- ハム
- にんじん
- きぬぎや
- 玉子



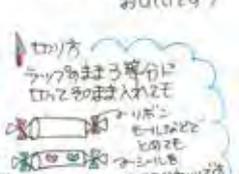
♡ ツインティーサラダ巻♡

- ツインティー
- にんじん
- サラダ菜



♡ シヤムロール♡

- フルベリージャム (お好みのジャム)
- ♡ シヤムをぬてまてお砂糖 (生クリームジャムもおいいです)



編集後記

桜の開花が待ち遠しい春三月、平成28年度も残すところわずかとなりました。各幼稚園及び各家庭でも新年度への準備で多忙な日々をお過ごしのことと思います。

この会報「ともだちのわ」は幼児教育に携わっている先生方のみならず保護者の皆さんにも楽しく読んでいただけるよう心掛けて作成しました。会報が先生方にとって貴重な情報源となり、資質・能力向

上の一翼を担うことができれば幸いです。同時に保護者間の共通の話題となり、さらには園(先生方)と保護者の交流が深まり、その結果お互いにより緊密な関係が構築・促進されることを願っています。

最後に原稿を執筆していただいた方々に心より感謝申し上げますとともに、ご意見ご感想等をお寄せいただければ幸いです。

大塚 友幸 (幕張インターナショナルスクール幼稚園)

訃報

大越 賢二先生 (学校法人ポーロニア学園 子鹿幼稚園 理事長) におかれましては、1月27日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。